

各位

上場会社名 株式会社 オービス
 代表者 代表取締役社長 御興 岩男
 (コード番号 7827)
 問合せ先責任者 取締役総務部長 梅田 孝史
 (TEL 084-934-2621)

業績予想の修正に関するお知らせ

最近の業績動向を踏まえ、平成21年3月12日に公表した業績予想を下記の通り修正いたしましたのでお知らせいたします。

記

(金額の単位:百万円)

平成21年10月期通期連結業績予想数値の修正(平成20年11月1日～平成21年10月31日)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想(A)	9,562	△387	△524	△700	△404.55
今回発表予想(B)	8,769	△677	△815	△996	△575.33
増減額(B-A)	△792	△289	△290	△295	
増減率(%)	△8.3	—	—	—	
(ご参考)前期実績 (平成20年10月期)	10,195	604	520	202	117.00

平成21年10月期通期個別業績予想数値の修正(平成20年11月1日～平成21年10月31日)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想(A)	8,506	△529	△574	△738	△426.26
今回発表予想(B)	7,791	△818	△865	△1,035	△598.08
増減額(B-A)	△714	△288	△291	△297	
増減率(%)	△8.4	—	—	—	
(ご参考)前期実績 (平成20年10月期)	9,183	508	544	304	176.02

修正の理由

第2四半期連結累計期間においては、世界経済の急速な減速により輸出が減少し民間の設備投資の縮小・延期や主要取引先の大規模な生産調整等の影響を受け、当社グループを取巻く環境が急速に悪化いたしました。

連結の売上高につきましては、木材事業において自動車、産業機械、工作機械及び鉄鋼関連の企業収益が予想を超えて急速に悪化したことにより梱包用材の市場が大幅に収縮する中で、シェア拡大のための競合他社販売先への戦略的販売価格による積極営業を展開したことにより、顧客数が前年同月比で20%程度増加し受注量を相当量確保したものの、販売価格が低下し、売上高は減少いたしました。

今後につきましては、国際的な金融市場が落ち着きを取り戻し、輸出や生産の悪化が下げ止まりを見せ、世界的な荷動きの回復期待から用船相場や原油価格も回復を見せ、期末から来期に向けて業績上昇の期待感はあるものの、足元の梱包市場の急速な回復は見込まれないことから、販売価格が前回予想数値の3%程度低下し、製品の出荷量は前回予想数値の10%程度減少するものと予想しております。

ハウス事業におきましては、公共投資に若干の回復が見られたものの、民需による建設工事が大幅に減少し、当社においても新規の引合金額が25%程度減少し、特に年度末の需要期を過ぎてからは、新規契約高が計画数値の50%を超えて減少いたしました。

今後も、建設業界を取り巻く環境は厳しいままに推移することが予想されることから、第3四半期以降の売上高は前回予想数値の20%程度減少するものと予想しております。

連結の利益面につきましては、木材事業において出荷量の減少に合わせ、原材料である原木の仕入量及び消化量を前回予想数値の6%程度抑え、それにより単位当たりの製造コストが上昇するため、売上総利益率は前回予想数値の4%程度低下するものと予想しております。

ハウス事業におきましては、大手マンションデベロッパーの破綻等により民間の販売先への与信リスクが高まり、それを回避するため与信リスクが少ない公共工事に各社とも営業をシフトしたため競争が激化し、当社においても公共工事の受注を獲得することで利益率が低下するものと予想しております。また、売上高が減少することにより製造部門の稼働率が低下するため、第3四半期以降の売上総利益率は前回予想数値の5%程度低下するものと予想しております。

なお、修正予想において第3四半期以降の為替レートは1US\$98円から95円へと修正しております。

個別の修正理由も上記と同様であります。

【注意事項】

上記の業績予想につきましては、現時点で入手可能な情報に基づき算定した見通しであり、今後の経済状況の変化及び様々な要因によって、実際の業績は予想値と異なる場合があります。

以上